



# 五中だより

令和4年10月3日  
小平市立小平第五中学校  
校長 伊藤 克行  
小平市小川町1-798

## やさしい気持ち

校長 伊藤 克行

9月12日(月)～14日(水)3年生と一緒に修学旅行に行ってきました。コロナ禍で入学してきた3年生にとってはまさに念願の宿泊行事でした。私は2日目の京都市内班別行動で、ある班と一緒に行動することになりました。

ほとんどの生徒にとって初めての地で公共交通機関を使って京都市内を巡ることになります。特に公共バス利用の難易度は高く、時間がずれてしまうことや、バス停がほとんどの場合2つ存在し、方向の間違ったバスに乗ってしまうと行程の修復はなかなか大変です。場合によっては、行く予定の場所を削って行動することも出てきますので、班員同士のトラブルや予期せぬ事態にも直面することになります。

なぜ私が一つの班に同行することになったかといえば、旅行直前に足を怪我してしまった生徒がおり、車椅子か松葉杖を使っでの移動しかできないためでした。初日の見学では初めての松葉杖をうまく使えなかったことも重なり思った以上に時間がかかってしまいました。本人の疲労度もかなりのものでしたので、2日目は体力を考え昼食から班に合流し午後の班行動をとともにすることにしていました。合流後の見学先は急な坂道のある清水寺でした。松葉杖での歩行は大変ですし、車椅子も階段や急な下り坂もあることからかなり心配をしていました。

しかし私の心配は大きく裏切られることになりました。班員の車椅子の介助の丁寧さはもちろん、一緒に行動することでかなり時間を要するにもかかわらず、嫌な顔一つせず、それどころか遠回りをしてでも平易な道を探しなんとか一緒に回ろうとしていました。怪我をしている生徒自身も周りの仲間に助けられることを自然に受け入れていて、自分から「ここをもう少し見たい」とか、リクエストをしているほどでした。こんな様子を見ていて私はとてもすがすがしい気持ちになりました。

方法や考え方は教えることができますし、年齢を重ねると「できること」は自然に増えていくものです。しかし「気持ち」や「感じ方」を教えることはなかなかできません。だからこそ班員のやさしい気持ちとそれを自然に受け入れている様子に感動していました。

今回の修学旅行では他にも全体でいくつかの急な変更がありましたが不平や不満などの様子は3年生から感じることはありませんでした。生徒たちが持っている「やさしい気持ち」に触れ、とても嬉しく思いました。皆さんが自然に身につけているこんな素晴らしいところをこれからも大切にしてほしいと願います。五中生、最高です。



## 3年修学旅行 (9/12～14)



3年生にとっては入学以来、待ちに待った宿泊行事となりました。天候にも恵まれ、入学後初めてとなる宿泊行事に、目を輝かせて取り組む3年生の姿が印象的でした。

初めて訪れた地で、不安を抱えながらも班員みんなで協力し、トラブルを乗り越え、班行動をやり遂げたことに、大きな成長を感じました。ルールや時間を守ろうとする意識がとても高かったことも立派でした。ここで得た経験を、合唱コンクールや自分の進路決定につなげ、生かして行ってほしいと思います。

## 8組演劇鑑賞 (9/29)

東京都教育委員会の事業「子供を笑顔にするプロジェクト」で、8組が劇団四季の「バケモノの子」を観劇してきました。子供たちは、舞台美術に圧倒され、楽曲に胸を打たれ、人間の心の闇とそれを乗り越える強さに感動して、「笑顔」になって帰ってきました。



## 食育キャラクター最優秀賞

小平市立学校給食センターが募集した「食育キャラクターデザイン」において、3年1組 永平珠稀さんの作品が最優秀作品に選ばれました。おめでとうございます。永平さんの作品は市内中学校の献立表や食育用資料、デザートラベル等に使用されます。



**名前**：ペコリーナ

**性格**：くいしんぼうでがんばりや。給食を食べるのが好き。

**アピール点**：給食の妖精。ビタミン・タンパク質・炭水化物をイメージした3色ハートがチャームポイント。おたまを使って給食づくりをお手伝いしている。特技は、給食をよく噛んで食べること。